

# 上関原子力発電所推進総決起大会

# 上関 未来通信

豊かな町を原電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

特集号

通算313号

発行 平成22年6月10日



5月16日、町連協をはじめ原電を推進する町内6団体が主催して『上関原子力発電所推進総決起大会』を開催しました。集まったのは原電の早期建設を願う町民を中心に、約千五百人の有志の皆さん。大会終了後は代表者ら約50人が田ノ浦の建設現場に向かい、海岸を占拠して工事の妨害を続けている反対派らに呼びかけを行いました。

## 届け！まち

上関原子力発電所は昨年4月、陸域の準備工事に着手し、建設に向けた大きな一歩を踏み出しました。私たちが待ち望んでいた原電立地によるまちづくりが、いよいよ実現に近づいてきた瞬間でした。

ところが9月に始まる予定の海域工事は、町内外の反対派による妨害行為で1ヶ月以上遅れ、さらに田ノ浦海岸の一部を占拠して、今も工事や機材搬入を阻止し続けています。

決起大会はこうした閉塞状況を打開し、一日も早い工事再開とともに、まちづくりへの気運をもう一度盛り上げようと開催したものです。

## 原電推進派千五百人が結集

# づくりへの熱い想い

**開会挨拶**

**町内6組織がひとつに**

先の町議会議員選挙では7割を超える支持を得て、議席も9対3という圧倒的多数を占めました。本日の総決起大会はこのような民意を反映して、原電を推進する6つの組織が心をつなげた初めての大会です。違法な妨害行為によって半年も工事が中断し、多くの人たちは我慢の限度を超えています。

ここに集まった私たちの強い想いを、社会に広く示していくことが大切だと思います。



上関町商工業協同組合 代表理事  
大会実行委員長 浅海 努 氏



会場となった室津埋立地は1500人の参加者で埋め尽くされた

**来賓挨拶**

**愛郷精神を胸に努力を**

建設計画が持ち上がって28年が経ちました。その間、様々な障害がありました。乗り越えることができたのは、町民の皆さんの愛郷精神の結果だと思っています。

しかし、昨年4月に始まった準備工事は、ほとんどの作業が中断しており、この状況が続けば計画的なまちづくりを、町民の皆さまに提案できないことに憂いを感じています。

私としては町民のため、上関町のため、これからも一生懸命努力していくことをお約束いたします。



上関町長 柏原 重海 氏



## 町外者の好き勝手は許さない



西山 明宏 氏

現地では町外者が「環境を守る」という美辞麗句を掲げながら、わがもの顔で海岸を占領しています。彼らは作業業者や中電社員に対して容赦なく罵声を浴びせ、工事を妨害し続けています。このような行為が業務妨害であることは誰が見ても明らかで、現地はまさに無法地帯といっても過言ではありません。

現状を打開するためには、私たちが大多数の町民がもっと積極的に、広く社会に訴えていく必要があると思います。これ以上、町外者の好き勝手な許すわけにはいきません。私たちの町は、私たちの手で守っていかねばならないのです。

今後は円滑に工事が進むよう、私たちも一丸となって、しっかりと声を上げていくことではありませんか。



町外者への呼びかけが書かれたフラカートの数々

※町内6団体/上関町商工会・上関町商工業協同組合・上関町建設業協同組合・漁業振興問題連絡協議会・上関原電推進委員会・上関町まちづくり連絡協議会

### 上関町建設業協同組合

## 力を合わせて行動しよう



**山崎 強 氏**  
我々は何度となく現地を訪れ、妨害をやめよう、反対派に呼びかけてきましたが、彼らはいっこうに聞く耳を持ちません。

町民は原電建設に町の命運を賭けています。しかし、彼らの行為は我々の働く機会を奪うばかりか、町民の生活にも大きな影響を与えています。一刻も早く工事を進めるため、中電に任せるだけでなく、私たちも力を合わせて行動を起こしましょう。

### 漁業振興問題連絡協議会

## 原電と漁業は共存できる



**海下 竜一郎 氏**  
私たちはこれまで多くの原電立地点を視察してきました。例えば島根では発電所のすぐそばで刺し網漁や養殖を行っており、獲れた魚介類が特産品になっています。原電と漁業は共存できるのです。

近年、沿海の漁業は厳しい状況が続いています。だからこそ今、原電立地の財源を活用した漁業振興を図り、活力ある町を私たちの手で創っていくことはありませんか。

### 上関原電推進委員会

## 28年間、民意は原電推進



**嶋尾 忠宏 氏**  
昭和57年6月、上関町が原電誘致を表明して以来8回の町長選挙と7回の町議選挙が行われ、すべて原電推進派が勝利しました。町民は原電建設を望んでいるのです。

昨年始まった準備工事は、適正な手続きを経ており、裁判でも妨害行為を禁止する判断が出されています。原電建設によるまちづくりは急務です。そのためにも、工事再開に向けて私たちが後押ししていきましょう。

# 田ノ浦では反対派に呼びかけ

## 直接交渉で局面打開を

総決起大会終了後、代表者ら約50人が田ノ浦の海岸を訪れました。現場では集まっていた反対派らに対し決議文を読み上げるとともに、妨害行為をやめて田ノ浦から立ち去ることなどを強く訴えました。このあと仮桟橋の周囲をロープで囲み、作業エリアをアピールしました。

また、翌17日には代表者12人が山口県警察本部と第六管区海上保安部、中国電力本社を訪れ、妨害行為に対する厳正な対応や工事の早期再開を申し入れました。



① 反対派に呼びかける西哲夫氏  
② 反対派と交渉する議員ら



③ 仮桟橋周囲に杭を打ちロープで囲んで作業エリアをアピール

## 2度にわたって反対派へ抗議!

6月1日・3日

### テントなどの撤去を要請

6月1日、上関町商工協の代表者が再び田ノ浦を訪れ、妨害行為に対する抗議を行いました。しかし、反対派は全く応じる気配がなかったため、同3日今度は町内6団体の代表者が

ら約100人が再度現地を訪れました。この日は妨害行為の中止を求めて抗議を行うとともに、勝手に設置しているテントや土のうの撤去などを強く要請しました。私たちは、今後も違法行為に対して抗議行動を続けていき、一日も早い工事の再開を目指します。



④ マイクで反対派に抗議

⑤ 滞っている町外者に直接交渉

⑥ 集まっていた女性たちにも直接交渉



⑦ 閉会挨拶は右田勝氏

⑧ 最前列に並ぶプラカード

民主主義を守れ!  
(町民の7割が推進だ)



⑨ 抗議のプラカードを持つ参加者



⑩ シュプレヒコールを読み上げる田中直人氏



⑪ 拍手で決議文を採択

⑫ 司会を務めた柏田真一氏

⑬ 大会決議文



⑭ 大会決議文を読み上げる守友誠氏